文学

10-14
文学

# 源氏物語の和歌
## ～和歌から読み解く源氏物語～

2コース

| | |
|---|---|
| 会場 | 学園都市センター ※P87参照 |
| 提供 | 共立女子大学 |
| 曜日・回数 | 火曜日6回 |
| 時間 | 13:30～15:00(Aコース)<br>15:20～16:50(Bコース) |
| 受講料 | 5,000円 |
| 定員 | 各40名 |
| 実施日 | |
| 10月 | 17日 |
| 11月 | 28日 |
| 12月 | 19日 |
| 1月 | 16日 |
| 2月 | 13日 |
| 3月 | 13日 |
| 備考 | |

源氏物語には800首近い和歌が含まれています。和歌は、その機能によって贈答歌、独詠歌、唱和歌の3つに分類されますが、源氏物語の作者は、この和歌の機能を見事に活かしてすばらしい作品を書き上げています。この講座では、それらの和歌に焦点を当てながら、源氏物語を読み進めていきますが、物語の和歌は、その和歌がどのような場面で、どのような心理状態で詠まれているのかを知らなければ、和歌そのものの意味も正しく読みとることができません。従って、和歌だけでなく、その前後の文章や物語の流れも読んでいくことになります。

今期は、若菜上巻の続きを読みます。
明石の女御が宮中から六条院へ里下がりをした機会に、六条院の秩序と安定を願う紫の上は自ら申し出て女三の宮と対面します。十月、紫の上は嵯峨野の御堂で源氏の四十の賀を行います。続いて、秋好中宮の、また、冷泉帝の命を受けた夕霧の主催でそれぞれの賀宴が行われました。翌年の三月、明石の女御は東宮の男子を出産しました。その知らせを聞いた明石の入道は、これまでの宿願の次第をしたためた遺書を娘へ送った後、山深く跡を絶ちました。明石の君は入道の手紙を明石の女御に見せ、源氏も見て、不思議な宿縁に改めて感慨を覚えますが、源氏は明石の女御に育ての親である紫の上への感謝を忘れてはいけないと諭します。三月の末、六条院で蹴鞠があった時、柏木は偶然にも御簾のはずれから女三の宮の立ち姿を見てしまいました。彼女への憧れを抑えきれないまま、柏木はひそかに恋文を送りました。（若菜上巻　後半）

※時間帯が2コースあります。いずれかのコースをお選びください。

【講師】篠塚　純子（しのづか　すみこ）　名誉教授

東京外国語大学フランス語科卒業。2008年3月まで共立女子大学国際文化学部日本コース所属の教授として日本古典文学（日記、物語、和歌）に関わる授業を担当。
主な著書に『和泉式部－いのちの歌－』（至文堂）、『古典の森のプロムナード』（不識書院）、『蜻蛉日記の心と表現』（勉誠社）、歌集に『線描の魚』（不識書院）、『音楽』（不識書院）がある。